

スマートラーニングをベースにした電子書籍の活用が学習満足度に及ぼす影響

同徳女子大学校 李 知 妍

1 目的

スマートラーニング (Smart Learning) は、「スマート型情報通信技術を学習活動に取り入れて学習源泉情報に最も簡単にアクセスすることができ、学習者間、学習者 - 教授間の相互作用を効果的にサポートしており、自己主導的な学習環境の設計を可能にする学習者主導型の人間中心的な学習方法」と定義される。つまり、スマートフォン、メディアタブレット、e-book端末機などのモバイル機器を利用した学習コンテンツとソリューションを通称する。モバイルメディア専用アプリケーション (application) の開発と普及の活性化は、電子書籍サービスを便利に利用できる環境を提供して、電子書籍一般化に大きく寄与している。この報告の目的は、技術受容模型 (TAM) を適用して、スマートラーニングであるスマートフォンを活用した電子書籍の利用による学習者の利便性・有用性・持続性と学習満足度との関係を実証的に分析することにある。

2 方法

調査対象はソウル市に位置する D 女子大学校 2016年1学期 教養国語必修科目「読書と書き方」の受講者である1年生を対象とした。調査に使用されたアンケートは、合計40問で構成された。一般的なスマートフォン利用に関する質問、スマートフォンを活用した電子書籍のビューアー利用に関する質問、電子書籍の利用に関する質問、コンテンツ利用に関する質問、学習者の学習満足度の質問などで構成されている。各領域には、リッカート (Likert) 4段階尺度質問と自由記述型質問が含まれている。総受講生104人のうち89人が応答し、データ分析は SPSS 18.0プログラムを用いて分析した。

3 結果

分析の結果、スマートラーニングであるスマートフォンを活用した電子書籍利用の場合、自己効力感は、利便性と有用性に有意な正 (+) の影響を及ぼし、学習没入度は有用性のみ有意な正 (+) の影響を及ぼすことが分かった。また、利便性は持続性に有意な影響を及ぼさなかったが、利便性と有用性は学習満足度に有意な正 (+) の影響を与えることが分かった。

4 結論

以上のことから、近年、電子教科書の導入を控えて教育電子書籍への関心が高まっており、韓国の大学図書館のモバイル電子書籍アプリケーションサービスの理論的背景を調査することにより、図書館のモバイルサービスの定義や特徴および必要性などが確認された。また、アンケート調査を通じて学習者の学習満足度に与える影響について実証的に解析した。今後、大学図書館を中心に急速に広がっているスマートラーニングの電子書籍サービスの効率性と活性化のためのフォローアップ研究が必要である。

5 参考文献

キム・ヨンボム, 2011、モバイルプラットフォームで e-Book コンテンツの活性化 研究,
[人文コーンコンテンツ]